

子どもの意見表明、意見聴取に関する本年度の取組について

資料 3

和歌山県こども計画 基本方針Ⅰ（2）こどもや若者の意見表明と社会参画

（ア）子どもの意見を尊重する仕組みづくり

こどもや若者が安全に安心して意見を述べることができる場や機会を設けるなど、こどもが意見を表明しやすい環境を作ります。

- ①意見を表明しやすい環境づくりの推進
- ②県の政策決定過程へのこどもの参画促進

①意見を表明しやすい環境づくりの推進

ファシリテーター養成講座

こども・若者が安全・安心に意見を表明できるようサポートする自治体職員を増やし、こどもや若者にとって安全・安心な意見表明の環境を整備することを目的に、子どもの意見表明を支えるファシリテーションについて必要な知識と実践的な学びの場を提供



講師 長沼 ななみ 氏
(認定NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン)

ファシリテーターの役割は、話し手の内面にあるものを引き出し、これまで滯っていたり、困難であったりしたことを動かしていくような支援や促しをすることです。安心の場づくりを心がけ、傾聴力を高めましょう。聞き手として質問力のスキルアップも大切です。

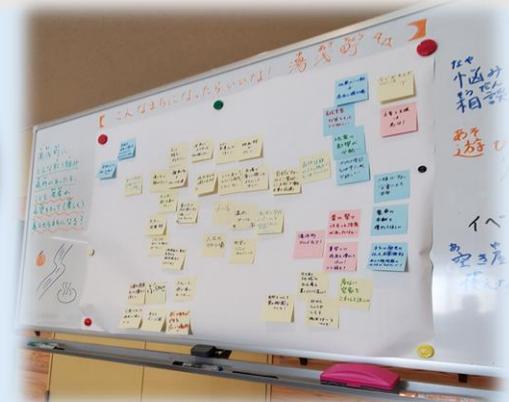


こども意見聴取サポーター派遣事業

こどもが安全・安心に意見を表明できる環境を整備することを目的に、庁内課室・市町村に対し、子どもの意見聴取に係るセミナー等イベントへの講師派遣及びこどもからの意見聴取時のファシリテーター派遣



ファシリテーター 中谷 郁恵 氏
(認定NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン)



湯浅町のこども食堂 しらゆりキッチンにて、昼食をとりにきたこどもや家族を対象に、「こんなまちになつたらいいな！湯浅町」をテーマに意見を募りました。集まった意見は、湯浅町こども計画（仮称）の策定に活かされます。

こどもまんなかアンケート

県内在住・在学・在勤の小学生から20代の方を対象にWEB形式で実施。回答数のべ1003件。

こどもや若者の
権利の保障

青少年の家の
あり方

高校生の
自転車交通マナー

プレコン
セプションケア

①小学生低学年向けアンケート

テーマ：大人に話を聞いてもらうこと
青少年の家について

②小学生高学年以上向けアンケート（小学生低学年も回答可能）

テーマ：こどもや若者の権利の保障
青少年の家のあり方
高校生の自転車交通マナー
プレコンセプションケア（※高校生以上対象）
から答えたいものを選択（複数選択可）

①については、277件の回答

②については、726件の回答（無効回答含む）

【回答者属性】

小学生低学年69件 小学生高学年92件 中学生130件
高校生343件 大学生・大学院生5件 短大・専門生29件
社会人41件 その他17件

【テーマ別回答数】

こどもや若者の権利の保障	361件
青少年の家のあり方	220件
高校生の自転車交通マナー	314件
プレコンセプションケア	182件



こどもや若者が自分の意見を自由に発信できる社会を実現するためには、まず「対等なコミュニケーション」を促進する仕組みが必要だと思います。年齢や立場に関係なく、発言に価値があるという認識を社会全体で共有することが大切なかなと思います。（高校生）

みんなでドッジボールや、鬼ごっこなど（でもはぐれないように）できたらいいなと思います。あとは、動物のお世話などもいいのではないかと思います。あとは乳幼児さんや赤ちゃんでも来ていいようにキッズルームを作ったり、おむつをかえられるスペースを作ったり、ミルクの販売なども行うと良いと思います。このようにみんなが快適で誰でもホントの家のように使えたなら良いと思います。例えば悩み相談所など困っていたりしんどい人の居場所にもなれると思います。（小学生高学年）

まず被っていない友達にヘルメットを被った方がいい事を伝えて、その友達からも身近な大人（親、兄弟、いとこ、祖父母など）の人にもどんどん伝えてもらうようにして、広げていくと良いと思います。（小学生高学年）

運動の機会を与えたり、心の状態が良くない人がすぐに話すことのできる場所を作ったりする。健康診断などの体の状態を知ることができる機会や場所を作る。（短大・専門生）

②県の政策決定過程への子どもの参画促進

2025 高校生未来会議

県内高校生4~5名で構成された7チーム、33人(男性15人、女性18人が参加)。



7月 WEB会議
(第1回会議)
オリエンテーション

8月 現地合宿
(第2回会議)
グループごとに議論
中間発表



9月 WEB会議
(第3回会議)
グループ最終発表

1月 WEB会議
(第4回会議)
担当課による報告



一泊二日の会議でしたが、私が思っていたよりもずっと満足度の高いものでした。セッション4の時間がもう少しあれば明確なデータなどを示したりと、よりクオリティの高いものに仕上げられたということに、少し悔いが残りました。

普段の学校ではどうしても生徒20人に対して先生2人という形になってしまうけど、今回のように少人数に対して大人2人などの環境は、言葉にしやすく、良い機会だったので、ぜひこれからも「高校生未来会議」を続けてほしいと思います。



権利の保障

03 期待できる効果

当事者意識が生まれる
これからの社会の担い手としての自覚が芽生え、会議への参加に繋がる。

様々な世代ならではの
発想力
多様な意見が生まれる
循環型の仕組みで
次世代へのバトン
世代を越えて会議を
発展させていく。

- 1. 例としてお祭りやマラソン大会などでワークショップのブースを作りヘルメットをステッカーでデコレーションさせると同時に啓発も行うことができる!
- 自分好みにデコレーションすることでさらに愛着が湧くと思うからです
もし可能なら...
- アパレルブランドなどと共同開発した帽子に似せたヘルメットを開発するヘルメットは夏仕様が主流だがつけ外してもこちこな冬仕様などのカスタムができるようにしてほしい

自転車交通マナー

青少年の家

新施策

メリット

- 作ったものをすぐに実用化することが出来る
- 教室というフォーマットは他の物にも応用できる。
- 新たに釣り需要も満たすことが出来る

- ✓ 生活習慣
- ✓ 月経や不妊基礎知識
- ✓ 妊娠・出産に向けた健康準備

学校に医師や助産師を招いて特別授業
「結婚や妊娠はまだ先でも、自分の体を大事にしよう」と意識づけ

プレコンセプションケア

2025
高校生未来会議
参加者募集

和歌山県の子ども、若者に関する未来の施策を議論にして話し合ひ、意見表明と、県への政策建議をしてみませんか

議題
(こどもや若者の権利の保障 / 「青少年の家」のあり方
「プレコンセプションケア」「交通事故問題」)

応募期間:令和7年5月9日から令和7年6月13日まで
応募対象:県内在住または在学の高校生相当年齢の方で構成するグループ

スケジュール
オンライン会議(7月上旬)
現地合宿(8月23日、24日)
発表(9月上旬)
オンライン会議(9月7日)
オンライン会議(10月7日)

※日程や内容は変更される場合があります。
★本会議は原則現地開催ですが、新型コロナウイルス等の状況によりオンライン開催となる場合があります。
問合せ先 和歌山県教育委員会青少年局こども部連携課
TEL:073-481-2492 E-mail:et102002@prem.wakayama.go.jp

ファシリテーター養成講座について、講師長沼氏によると本来半日以上かけるプログラム、を濃縮して2時間に収めた内容として実施した。事後アンケートで「(大変)参考になった」の回答の割合は高かったが、

設定を与えて、ファシリテーターが聞き出すワークに、もう少し時間を割いてもよかったです。

実際にやってみないと、子どもたちを集めて、どのように盛り上げ、意見を聞き取れるのかは、イメージがつかなかったです。

子ども役と大人役に別れてペアワークに取り組む際には、前もって子どもの話を聞く側の意識するポイントを示してもらえると、より本番を意識した実用的なワークになったと思います。

実際、ペアワークでも効果的な質問をするのが難しかったです。場数を踏んで自信をつけていかないと、ファシリテーターの役割は果たせないと思いました。そして、その意見を聞いた上でどう反映させていくかも聞きたかったですが、時間を大幅にオーバーしていたからでしょうか、その説明はなく残念でした。

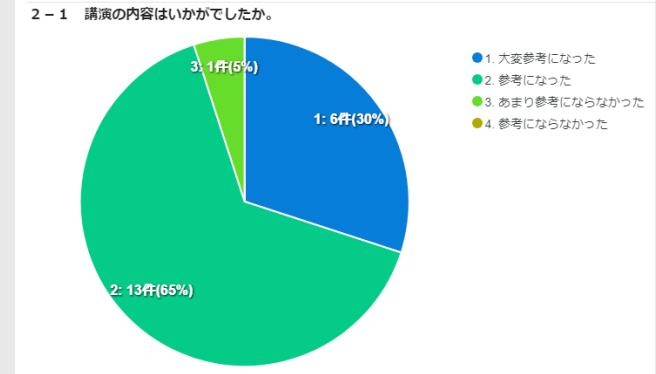
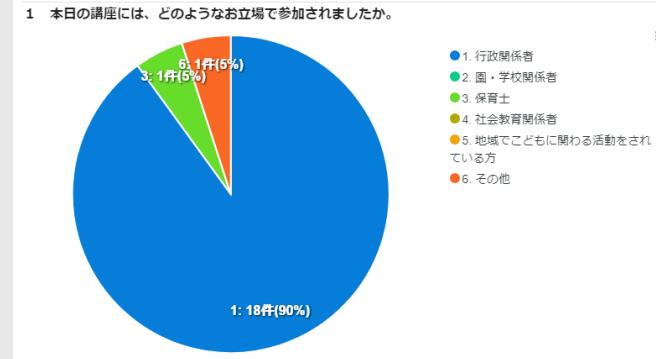
もっと時間をとってほしい。10時から13時でよかったです??可能なら半日以上、1日やってもよかったです。

等、内容に関する要望が複数寄せられたため、次年度以降の開催方法も含め検討課題とする。

こども意見聴取サポーター派遣事業について、今年度自治体こども計画を策定あるいはこどもの意見聴取のためのワークショップ等を実施する市町村に主に声かけをし、実現している。2月には海南市立中学校7校の生徒会役員が参集する会議の場でこどもの意見聴取が実施され、その場にファシリテーターを派遣する予定となっている。

次年度以降、事業の周知と実施を呼びかけるのも大事であるが、自治体こども計画の策定状況とともにこどもの意見聴取にどう取り組んでいるか調査を行い、県内の実態を知った上で、市町村が自走していくのに役立つ事業と位置づけ、ファシリテーターまたはサポーターの助言を得ながら進めることもよいのではないか。

こどもまんなかアンケートについて、こども未来課のホームページ及び2025 高校生未来会議報告書（仮称）で意見反映を公表する予定であるが、次年度は直接担当者の声で回答を届ける機会を設けるため、こどもまんなかアンケートをモニター登録制とし、意見反映をオンライン等会議で報告する仕組みを検討する。

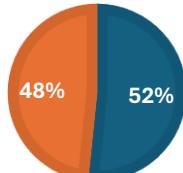


取組のふりかえりと課題

2025 高校生未来会議（第2回）の参加者のアンケートより

①開催日時

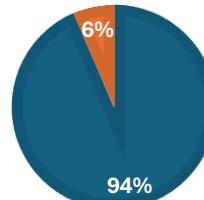
■よかったです ■よくなかった



宿泊施設の予約が取れず、第2希望の日時となつた。

②開催場所

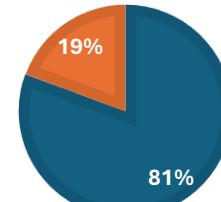
■会議を行う場所として、よかったです
■会議行う場所として、よくなかった



長沼氏発言「参加したいこどものために交通手段を手配するのはよい。」紀北・紀南からそれぞれバスをJR特急停車駅に配車した。

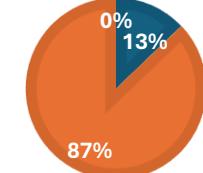
③交通手段

■よかったです ■よくなかった



④スケジュール

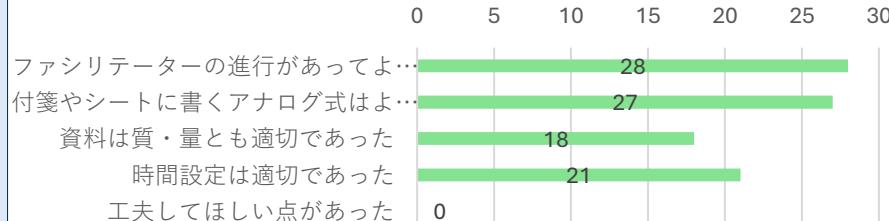
■やることが多く感じた
■ちょうどよかった
■物足りなく感じた



⑤交流について



⑥セッション1、2、3について



⑦セッション4について



⑤、⑥、⑦に好意的な意見が寄せられた他、記述式回答には参加者の学びや自己の変容等が想定より詳細に記載されていた。

一方で、第3回は学校行事や定期考査、実習等が重なり全員が参集したオンライン会議を実施できなかった。意見表明、意見聴取における参加者個々のあるいは全体のボルテージを持続するのに、会議日程について検討の余地がある。